

II 青少年教育

あそび隊「ゲンキッズ」

～誰もがともに育ちあえる地域づくりをめざして～

福岡市鳥飼公民館 主事 吉村 亮子

〔地域の概要〕

都心に近く利便性の良い静かな住宅地。校区内に区役所、保健所、小・中・高校があり、世帯の約9割がマンション等の集合住宅に住む。生産世帯は通勤族のため核家族が多い。

〔事業の目的〕

障がいのある子どもたちと家族ぐるみでともに活動し、ともに触れあうことで、障がいについて正しく理解し、他人への思いやりの心を育んでいく。

〔事業の実施主体〕 鳥飼公民館

〔連携・協力機関・団体等〕

鳥飼アンビシャス広場委員会（学校週5日制支援「めだかの会」・障がい者支援「マイスペース」）

〔事業予算〕

市予算34,600円 その他、必要に応じて参加者から徴収した参加費、及び鳥飼アンビシャス広場委員会予算で補う

〔実施に至る経緯〕

平成14年度、学校週5日制事業としてあそび隊「ゲンキッズ」立ち上げる。

平成17年度、知的障がいのある子どもたちにとって校区に居場所がないことを知り、障がい児を対象にしたアンビシャス活動「マイスペース」立ち上げる。

平成18年度、「マイスペース」の活動が活発になってきたのを機にあそび隊「ゲンキッズ」と交流を開始する。

平成20年度、子どもの健全育成関連事業あそび隊「ゲンキッズ」として、①異年齢の子ども達による共同生活体験（通学合宿）②保護者の仲間づくり、地域デビューの機会提供③障がいのある子ども、高齢者、地域の方々との交流にねらいを変更する。

〔プログラム作成の視点〕

障がいのある子どもたちとの交流を全体の半分に組み入れ、①障がいのあるなしに関らず親子で楽しく活動ができる、②互いの交流がはかれる、③障害のある子どもた

ちが参加しやすいものという視点に立ち、企画を立てる際に障がい児の保護者の意見を参考にしてプログラムを作成。

〔事業の内容〕

対象：校区在住の小学3年生以上で、年間を通じ親子で活動に参加できる児童

定員：20名

費用：スポーツ保険500円、活動諸費（活動に応じて徴収）

年間計画

月 日	対象	内 容
4月10日(土) 講演会・説明会	親	「共に育つ～今私たちが子どものために出来ること～」 福岡市発達障害者支援センター所長 緒方よしみ
5月 8日(土)	家族	マイスペースと交流 「茶摘み」(今宿野外センター)
5月16日(日)	家族	「つくしんぼ祭り」ボランティア 5・6年生のみ
6月19日(土)	家族	マイスペースと交流「キンボール」(中央特別支援学校)
6月25日(金)	家族	「ちょこパト」(校区一斉夜間パトロール)に参加
7月17日(土)	家族	マイスペースと交流 「西部リサイクルプラザ」
9月18日(土)	家族	高齢者と交流 「ダーツ」
10月12日(火)	児童	通学合宿 6年生 「早寝・早起き・朝ごはん」
10月13日(水)	児童	通学合宿 5,6年生 「」
10月14日(木)	児童	通学合宿 4,5,6年生 「」
10月15日(金)	児童	通学合宿 3～6年生、中学生 「きもだめし」
10月16日(土)	家族	マイスペースと交流 「レクリエーション」
11月20日(土)	家族	マイスペースと交流 「みかん狩り」(浜玉町)
12月18日(土)	家族	「親子ボーリング大会」
1月15日(土)	家族	「大型かるた」
2月19日(土)	家族	マイスペースと交流 「陶芸教室」
3月12日(土)	家族	マイスペースと交流 「お別れ会」

活動の事例

日時：10月16日(土) 9:00～14:00 (通学合宿の最終日)

対象：あそび隊「ゲンキッズ」家族、「マイスペース」家族 参加者47名

ゲンキッズの子どもたちにとっては通学合宿の最終日。9時半に保護者がやってきて徐々に家族が揃いました。早速、お父さん方は中庭でかまどの火起こし、お母さん方はだご汁の野菜の切り込み、子どもたちは小麦粉をこねて寝かせます。



どこに障がいのある子どもがいて、障がいのある子どもを持つ親がいるか、お父さんもお母さんもみんなも、忙しくて全員で一致団結しての作業です。

マイスペースの参加者で、活動に参加できない子どもたちは、大学生が自主的に交代で介助に入ってくれました。

だごを寝かせている間、子どもたちは大学生と一緒にスライムやペットボトルの空気砲（7月にリサイクルプラザで習う）を作って遊びました。

いよいよ、先ほど捏ねた小麦粉を伸ばして汁に入れただご汁を食べました。



お腹がいっぱいになったあとは、大学生が考えたゲームを参加者全員で行いました。

身に着けたものを脱いで長く長くつないでいくゲーム、大きな輪になって手をつなぎ、つないだ手を絡めたあとにもう



一度それはずしていくゲームなど。

お父さんもお母さんも子どもたちもみんな歓声をあげながら夢中で遊びました。ゲームの後は雑巾がけで終了！みなさん大満足でした。



〔事業の成果〕

開始当初は親子ともに障がい児への接し方がわからず話しかけることさえできなかったが、継続していく中で体験を通して障がいのある子どもとの関り方や親の大変さなどを学んでいくことができた。また、当初は迷惑をかけることで躊躇していた障がい児の親も、徐々にリラックスして参加できるようになり、必要な支援を声に出して求められるようになった。特に大学生ボランティアは障がい児との関りが密だっただけに、障がいに対する理解や関心、人に対する優しさを深めているのが感じられる。

〔今後の課題〕

あそび隊「ゲンキッズ」に参加したいという子どもたちの声は聞くが、一年間を通じ親子で関るということがネックになっているのか、募集をかけても年々参加者が減少傾向にある。また、3年生から継続して卒業まで、さらに中学生になってもボランティアとして続けて来てもらいたい。高学年になるとサークル活動に、中学生になると部活にと子どもたちが忙しくなり、月1回の活動でも参加することが容易でない。継続の必要性を痛感するだけに残念である。

〔問い合わせ先〕

福岡市鳥飼公民館

〒814-0103 福岡市城南区鳥飼4-13-1

TEL 092-821-5227 FAX 092-821-5247

E-mail torikai35@jcom.home.jp